このメールは、日本女性薬剤師会が企画するセミナー・研修等に参加された皆様にお送りしております。

既にセミナー等に参加申し込みしている皆様にも重複してお知らせしておりましたらお許しください。

★日本女性薬剤師会　小縣　悦子会長より新春のご挨拶

明けましておめでとうございます

日本女性薬剤師会では、今年も薬剤師向け通信教育講座に加え、婦人科専門領域研修や医療安全セミナーなど新たな知見を得る研修会を展開していく所存です。また、時代の求めに応じ、女性の健康上の特性に留意した取り組みを推進し、女性ならではの視点を大切にした地域医療に貢献できる薬剤師を応援してまいります。

本年もこれまで以上のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、みなさま方のご健勝をお祈りいたします。

さて、今年は、薬剤師にとってどのような年になるでしょうか。

かねてより、2026 年の薬局業務は、厳しいという意見が際だっていました。私たち薬剤師は、どう対応すればいいのでしょう。

・調剤報酬改定年
・オンライン、医療 DX の普及
・在宅医療、地域連携の強化
・健康サポート機能の拡大
・セルフメディケーションのための一般用医薬品の適切な販売
・緊急避妊薬「ノルレボ」の販売

日本女性薬剤師会では、これらの業務がスムースに行えるよう、知識の補完のための研修会も企画してまいります。薬局薬剤師・病院薬剤師だけでなく、企業にお勤めの薬剤師さんやこれから仕事に就こうとお考えの方にもご参加いただき、目まぐるしく変化する薬剤師を取り巻く環境に役立てていただきたいと思います。

★日本女性薬剤師会ホームページリニューアル！https://www.jyoyaku.org/

2025 年 12 月 15 日　より美しく見やすいスマホ対応の HP にリニューアルしました。

日本女性薬剤師会「認定薬剤師研修制度」G16 の概要 ｜JWPA【一般社団法人　日本女性薬剤師会】
薬剤師継続学習通信教育講座の概要 ｜JWPA【一般社団法人　日本女性薬剤師会】
女性薬剤師会主催の行事日程 ｜JWPA【一般社団法人　日本女性薬剤師会】
日本女性薬剤師会について
会員ページ ｜JWPA【一般社団法人　日本女性薬剤師会】

CAPEP 第7回 WEB セミナー2026 参加申し込み受付中

受講料無料で事務手数料のみで受講できるセミナーです。PMDA 担当者から、医薬品副作用被害救済制度の学び直しをしましょう。

【e ラーニング】CAPEP 7th WEB セミナー（受講期間：2026 年 2 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）のお申込みはこちら

認定薬剤師認証研修機関協議会
（CAPEP： Council on Accredited Pharmacists Education Providers）

CAPEP 7th WEBセミナー

後援
薬剤師認定制度
認証機構（CPC）

受講期間：　2026年2月1日～2026年3月31日
単　位　：　1　単位（G16）
受 講 料：　無料※
※別途、単位シール発行のための事務手数料1,000円が必要です

申 込 み：CAPEP会員研修機関 裏面参照
G16（日本女性薬剤師会）では2026年1月5日より受付開始

～2025年度改訂版～
※2024年度版と重複する内容が含まれます。

独立行政法人
医薬品医療機器総合機構（PMDA）
健康被害救済部
次長　中林 哲夫先生

医薬品は有効性と安全性のバランスの上に成り立っているものであり、その使用にあたって注意を払っても副作用の発生を防止できない場合があります。このため健康被害にあわれた方を迅速に救済することを目的とした医薬品副作用被害救済制度が創設されました。
本セミナーでは、医薬品副作用被害救済制度について事例をあげて紹介する他、副作用の特性や適正使用の考え方について解説します。

1 月のトピックス

★2025 年度第二回医療安全 Web セミナー参加報告（12 月 14 日開催）

一般社団法人 日本女性薬剤師会
実践のヒントを得て 医療安全を考える！
―街の科学者として安全な薬物治療を支えるために―
医療安全Webセミナー
2025年度 第2回 がん薬物治療
G16 認定単位 2
2025 12/14（日） 13:00～16:30
Zoomウェビナーによるオンライン研修
詳細PDF

プログラム

13：10～14：10（60分）	**治療期がん患者への薬局からの支援と病院連携の実際** 日本調剤　柏の葉公園薬局　店舗責任者　下村　直樹　氏
14：20～15：20（60分）	**がん患者の在宅支援と地域で担う緩和ケアの実践** 医療法人秋本クリニック　地域医療連携室室長　笠原　庸子氏
15：25～16：25（60分）	**外来がん治療を支える薬局薬剤師への期待と最新知識** 草加市立病院　薬剤部　主査　伊藤　剛貴　氏

2025 年度　第 2 回　医療安全 Web セミナー（12/14）　参加報告
医療安全推進委員　栗原敬子氏（新潟県女薬会長）

2025 年度　第 2 回　医療安全 Web セミナーが日本臨床腫瘍薬学会の共催で開催され、がん薬物治療をテーマ

に調剤薬局、地域医療連携室、病院といったそれぞれの薬剤師の立場から下村直樹氏、笠原　庸子氏、伊藤　剛貴　氏の 3 名の先生から講演いただきました。

1．治療期がん患者への薬局からの支援と病院連携の実際

下村直樹先生は、抗がん剤処方が当たり前である病院の門前薬局ではなく、たまにしか抗がん剤処方を受けないような調剤薬局が応需する際に慌てないように、日頃からの準備として患者が来たら「すべきこと」、「何」の情報が必要なのか、「どこに」情報があるか理解しておくと大切であると述べられました。

抗がん剤治療が「治癒」か「延命」なのかによって支援は異なります。「治癒」の場合は術後再発の予防や根治をめざすには抗がん剤の使用期間が重要で抗がん剤治療を完遂させることが重要です。「延命」は生存期間の延長や、症状改善、QOL 向上を目指し患者の希望や生活環境を考慮したサポートが必要です。

「治癒」「延命」のいずれにおいてもレジメンの把握は大切であり（患者から収集しなくても）適正使用ガイドや専門医療機関連携薬局をうまく使うことをアドバイスいただきました。

2．がん患者の在宅支援と地域で担う緩和ケアの実践

笠原庸子先生は、病院勤務の薬剤師から在宅医療に携わるクリニックの薬剤師に転身し、在宅患者のサポートを「お願いする側」から「受ける側」となり、病院と薬局だけでなく医療機関同士の「つなぎ役」も務められています。

がん患者の在宅医療を支えるには、①がんの経過を知り、身体機能低下・衰弱する中での支援を考える。②症状に対する理解を深め対処する。③ 在宅・病院の強みと弱みを知り、各々の強みを活かし、患者・家族に合わせたケアやゴールを考えることが大切である　と述べられました。在宅医療では、医師や看護師、ケアマネージャー、薬剤師など多職種が連携し、患者の生活と治療を支えています。診療同行だけでなく、訪問看護同行、ケアマネの業務量軽減のためタスクシェアを行うことは他職種と積極的に関わりを持つために有用です。

在宅緩和ケアの現状として高齢化の加速、社会状況により変化し続け　対象疾患はがんだけではなく、ケア提供者は医療従事者だけではなく介護従事者にも広がっています。 医療者や介護従事者が提供できる緩和ケアは医療支援でだけでなく、生活支援を含めたサポートが必要です。

在宅における終末期緩和ケアとして、エンドオブライフ・ケア（EDL-C）の重要性、
医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと　事前に繰り返し話し合うプロセス　ACP（Advance Care Planning）とその問題点について紹介されました。

3．外来がん治療を支える薬局薬剤師への期待と最新知識

伊藤剛貴先生は、各種抗がん剤（ホルモン剤、細胞障害性抗がん薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬、抗体薬物複合体、二重特異性抗体薬）の特徴や有害事象についてレクチャー頂きました。

特筆すべきは直近の新規承認薬剤 22 剤のうち約 35%を抗悪性腫瘍が占めており、抗体薬物複合体はがん細胞に特異的に結合する「抗体」に、強力な「抗がん剤」をリンカーでつなぎ合わせたハイブリッド医薬品であり次世代のがん治療薬です。

CAR-T（カーティー）療法は、患者自身のＴ細胞を取り出し、遺伝子改変してキメラ抗原受容（CAR）を発現させた T 細胞を用いる細胞免疫療法です（とても高額、投与回数に制限あり）。

治療薬の発達による多様な症状、抗がん剤併用により有害事象も煩雑かつ長期にわたり発現することから、有害事象の管理に連携・フォローアップが重要であると考えます。

本セミナーにおいて、以下の「」が非常に印象深く残っています。
「延命においてスライド的に抗がん剤選択がなされる。」（下村先生）
「エンドオブライフケア（EOL-C）が必要な患者と認識されず積極的治療が行なわれている場合がある」（笠原先生）
振り返ると私の患者達がまさにそうであったなと痛感しました。終末期に入っているにも関わらず治療が継続されて

いる中で聞かされるのはがんや薬のこと以外が多かったこと、患者の意思や希望を感じながら、もっとやれたことがあったのではと反省させられました。
「調剤薬局から報告のあった患者のつぶやきが、治療の最終目的となり延命できた」（伊藤先生）
病院と薬局で強み・弱みがあり、相互補完することで充実したがん治療が可能になります。
服薬上の問題や有害事象といった見える部分はもちろんのこと、見えない部分についても臆することなく情報提供する姿勢が大切であると思えました。
　今回のセミナーはがん薬物治療、在宅医療そしてがんサバイバーについて考えさせられた充実したセミナーでした。
２０２６年度の医療安全 Web セミナーは、７月と１２月の２回開催予定です。是非継続してご受講ください。

厚労省ホームページ更新情報

★薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について（令和 7 年 12 月 5 日適用）

★緊急避妊薬の調剤・販売について｜厚生労働省
要指導医薬品たる緊急避妊薬を販売しようとされる薬剤師の先生方へのご案内[2.2MB]
第一三共ヘルスケアは緊急避妊薬「ノルレボ」（有効成分名＝レボノルゲストレル）を 2026 年 2 月 2 日に発売すると発表しました。1 錠包装で、メーカー希望小売価格は 6800 円（税抜き）
Forms での登録申請等について、よくあるご質問【FAQ[87KB]】（令和7年 11 月7日時点）
詳しくはご所属の都道府県薬剤師会の情報をご参照ください。

□広報誌 RAD-AR NEWS（レーダーニュース）12 月号公開中！

このメールに関するお問合せ、配信停止のご連絡はこちらでお受けします。jwpasafety@gmail.com